

通告番号 1

## 一般質問発言通告要旨

通告者 14番 真崎 寿浩

### 1 神代地区全域の水道計画について

(1) 現在、令和元年度の「地域の意向調査」の結果を踏まえ卒田地区の事業は進められているが、神代全体の今後の展開について伺う。

①年度ごとの計画も含め、事業の進捗状況の説明は十分なのか。

②令和5年度までに加入意思のある世帯に対しては再調査を行うとしているが、再調査は行ったのか。行ったとすれば、その結果はどのようなものなのか。

③今回の計画から外れた地域の対応はどのように考えているのか。

④公共施設が集中している場所（神代出張所、学校等）に対する敷設の考え方は。必要性については。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 1番 西宮三春

### 1 子育てしやすい仙北市を目指して

- (1) 保護者が希望するこども園等に、子どもの障がいの有無にかかわらず入園できているのか。
- (2) 今年度の待機児童の人数と保育士の現状について。
- (3) 年度途中の入園希望の現状について。
- (4) 簡易ベッド・お昼寝コットの導入について。

### 2 市民が安心して利用できる公共施設の今後について

- (1) 今年度、消防署の立入検査の実施で指摘があった危険物施設がある公共施設のうち、危険物取扱者が不在だった施設は、資格取得などで改善されたのか伺う。
- (2) 今後、人事異動等で危険物取扱者が不在にならないような配慮はあるのか。また、来年度以降、新たに危険物取扱者の試験を受けなければならないことが想定される場合、職員への負担が懸念される。今後の方向性について伺う。
- (3) 地下埋設タンクの漏れ防止措置が完了していなければならない日の期限が迫っている、または数年でその期限が来る施設は、田沢湖活性化センター、角館中学校、生保内中学校、平福記念美術館、角館交流センターなどがあるが、これらの施設は内面ライニング措置を検討しているのか。または、危険物取扱者のいない少量危険物施設への変更等を検討しているのかを伺う。

### 3 さらに防災強化に向けて

- (1) 今後、災害発生で使用し不足となった備蓄品は、速やかに補充ができる体制が必要と考えるが、今後の体制について。また、備蓄品に女性の視点を取り入れているのか問う。
- (2) 各庁舎への分散備蓄について、災害の規模によって孤立の危険が想定される地域には、それぞれの避難所への分散備蓄が望ましいと考えるが、見解を伺う。
- (3) 防災強化には、職員の防災意識の強化も大切だと考える。先日角館庁舎で行われた避難訓練では、来庁者避難誘導、トイレなど個室の逃げ遅れ等の確認が徹底されておらず、高齢者・障がい者など来庁者への対応などに大きな課題があると感じた。今年度各庁舎等で実施された避難訓練から出た課題について伺う。また、昨年度の実施から改善された点、課題等について職員への情報共有の現状について伺う。
- (4) 7月の豪雨災害を経て、職員の避難所運営等の訓練も必要と考えるが、来年度実施予定の避難訓練の実施時期と内容について。来年度、希望する市職員へ防災士資格取得を進めていくのはどうか。見解を伺う。
- (5) 女性の救命率向上のため、市内公共施設のAEDに三角巾の導入について。

#### 4 田沢湖地区の今後の施策について

(1) 令和6年度予算に対し、国・県へ要望等による成果と将来像について。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 3番 中村和彦

### 1 観光振興等について

- (1) 安心・安全を基軸とした観光誘客体制の整備を行うとしているが、具体的に何処をどうするのか伺う。
- (2) 質の高い観光地としての高付加価値化を進め、観光消費額を高め、稼げる観光地を目指すとしているが、具体的にどう進めるのか伺う。
- (3) 歴史的文化遺産の活用とは、具体的に何処をどう活用するのか伺う。
- (4) 武家屋敷に集中している観光客を分散するには、外町地区を景観重点地区指定することが望まれるとあるが、具体的に、どのあたりをどう進めるのか伺う。
- (5) ユネスコ登録の世界遺産である、角館の祭りについて、会館建設等含めて、今後どのように進めていくか伺う。
- (6) 生涯スポーツの振興で、スポーツ協会の事業が、実質赤字決算となっているが、今後の協会運営等についての考え方を伺う。

### 2 教育行政について

- (1) 公民館活動において、若者が参加しやすい講座を3件ほど増やす目標であるが講座の内容と、その経緯について伺う。
- (2) コミュニティ・スクールの推進として、7校を予定しているが、実際の会議等が夜になると思われるが、担当の先生方の残業増や負担増に、つながらないか伺う。
- (3) 中学校部活動指導員を100%にする指標が示されているが、4月から指導員が配置され活動すると思われるが、どのような配置で、何人必要か伺う。

### 3 市職員について

- (1) 日直業務について、委託を検討すると以前に答弁頂いたが、どのように検討して、どのようになったのか伺う。
- (2) 令和5年度は、大変遺憾な事案が多数発生した。これを受けて当局の対応等について、様々な意見等があった。今後二度とこのような事案が起こらないように、どのような取り組みを、進めていくのか、市民に向けても、その本気度を示して頂きたい。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 4番 澤田雅亮

### 1 ふるさと納税について

当市におけるふるさと納税の今年度寄附額は市政報告にもあった通り24億超と、過去最高額を記録しているということで、人口減少等による財政が年々厳しくなる仙北市において大きな助けになっており、担当職員の日々の努力、企画等に心から感謝する。

当市はプレジデントオンラインの記事によれば、貧乏自治体ランキングワースト18位と将来に不安を感じるデータもある。

そこで、ふるさと納税制度が廃止された時、どのような不利益が発生するのか質問させて頂く。

- (1) 当市の財政調整基金は中規模災害などが発生すれば心もとない金額である。そもそもふるさと納税が無ければ当市はすでに財政破綻していた可能性があるのか。また、それは何年前かを伺う。
- (2) ふるさと納税がなければ既存事業、新規事業が継続、施行できなくなるのか。具体的な事業数と金額、廃止となる市民へ提供しているサービス名も数事業合わせて伺う。
- (3) ふるさと納税の調子が良いからそれを率先して活用すれば良いという声も聞こえるが例えば24億の寄付額のうち手数料を引いて実際に使える金額はいくらかを伺う。
- (4) 15年後、30年後を見届けることができる身からすればお金があるうちにどんどん使えというのは無責任な話である。貯蓄の方にも回し将来必ず発生する解体費などを減価償却という費目での準備を進めなければならないと思う。そのために年間貯蓄に回す金額はいくらを想定しているのか伺う。
- (5) 令和6年度のふるさと納税寄附額はいくらをめざしているのか伺う。

### 2 仙北市職員の残業について

- (1) 2023年6月6日のジチタイワークスのデータによると地方公務員の残業市区町村は11.3時間/月、135.4時間/年となっている。以前残業について質問をしたところ、今年度は1割の残業カットを目指すということだったが予定カット時間/歳出はどのようになる予定か伺う。
- (2) タイムカードや額面上はカットされていてもサービス残業といった問題が別に発生する可能性も否めない。そういった積み重ねは職員のモチベーション、一部の人間の負担増に繋がると思われるが仙北市はどうか伺う。

### 3 仙北市職員の組織改革と育成、チャレンジ精神の向上について

一般的に公務員のイメージと言えばリストラがなく、安定している、残業が少なく定時で帰りやすいといったもので、民間企業よりも離職率が低い傾向にある。しかし、年齢別に見ると若いほど公務員の離職率が上がっているというデータが令和3年度地方

公務員の退職状況調査から確認できる。25～29歳でやめる人の割合が全体の約4分の1であり、30歳になるまで辞める人の割合は合計で40%にのぼる。辞める理由に、

- ・年功序列のような職場環境、人間関係に不満を感じる
- ・仕事量に対して収入が見合っていない
- ・今後のキャリアアップや仕事のニーズに不安を感じる

などが挙げられている。

民間でも若手は先述した理由により退職するというのは見受けられるが、今後田口市政を前に進めウェルビーイングの向上に繋げるには従来の育成、組織編成で機能するものだろうかとの疑問に思い質問をさせて頂く。

- (1) 令和5年度における定年退職以外での年代別の離職者数はどれくらいか。また、受験者数と合格者数の推移は如何か。
- (2) 仙北市における人事評価の査定基準はどの様になっているのか。また、そのチェックシートのようなものがあれば公表は可能か。可能であれば前市政と現市政の人事評価における違いは何かを伺う。
- (3) 施政方針にて組織の再編を発表され、2月15日に行われた全員協議会の中では定期的な人事異動の徹底も説明をされていたが、今後の職員の育成方法に全てがかかっていると思う。具体的にはジェネラリスト（総合職）、スペシャリスト（専門職）の棲み分けをしっかりとした上で、向上心、チャレンジ精神がある人の選定が重要になるのではないかとと思われるが、今後若手職員の育成はどのように勧めていく予定か伺う。
- (4) 2024年部局経営方針シート案の中で、農林商工部の内容を確認すると商工に関する内容が畜産農業の内容にマッチしているというより、畜産農業／商工と独立した内容に受けとれる。これらを見ると、前市政時の組織改編で今の農業と商工が一つになった形だと思われるが今の組織編成が今後も今以上に機能するのかが疑問である。また、市内の商工関係の集まりなどでインタビューすると組織改編されたあとで、商工業に関するサービスが利用しづらくなった、スピード感が失われた気がするというお声も地域別に頂戴している。一般に、ビジネスにおいてスピード感は非常に重要である。こういった声は市に届いているのか。
- (5) 仮に商工を含めた組織改編をすると、人事や人件費などの変更点等が出て大変なのはわかるが、より市の産業に寄り添った形にするのであれば観光文化スポーツ部か、企画部に統合したほうがより市の産業に直接的かつ機能的になると思うが如何か。

#### 4 地域振興策について

- (1) 田口市政が始まりサテライトオフィス誘致企業で市内に進出した企業数は何社か。
- (2) 現段階で進出が決まっている企業はあるのか。
- (3) インターナショナル誘致ツアーで学校設立やサマーキャンプとしての利用に前向きな意見もあったという事で今後どのようなスケジュールを組んでいるのか。
- (4) インターナショナルスクール等において、実現すれば関係人口が増える事が予想されるが、具体的なイメージと目標、予定を建てた上で勧めていくことが重要だと思われる。現段階でどのように関係人口を増やしていくのか。内容的には企画部の管轄であるが人員は足りているとは思えない。結果がわかりやすく出ている部署だからこそ人員の確保と、人材育成が重要かと思う。今後どのように進めるべきか伺う。

(5) 仙北市における空き家バンクの利用状況と利便性の状況は如何か。「仙北市空き家バンク」で検索すると「仙北市空き家情報登録制度えぐきてけだんし」がグーグル検索ではトップにヒットされ、クリックすると簡単な説明と地区の地図が表示、その地区を検索すると該当する空き家が表示される仕組みだが、実際の空き家数と比較して掲載が少ないと感じる。また、空き家バンク協力業者一覧の最終掲載日時が令和4年11月14日である。更新が無いということは変更がないという意味だとは思いますが移住した方、移住されたい予定の方から数名ではあるが空き家バンク情報が分かりにくく結局自分で探した、探すという移住・定住に向けた細かな配慮が欠けていると思われる。以前仙北市のホームページが分かりにくいという話をさせて頂いたが、DXの推進を進めるのであればそろそろ新たなホームページや必要な情報にたどり着きやすくする準備に取り掛かっても良いのではないかと思うが如何か。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 10番 田口寿宜

### 1 令和5年12月定例会の一般質問を振り返って

- (1) 小田島議員の一般質問において、田沢湖・角館間の交通について質す質問があった。当局からは、今後も様々な可能性を検討し、最も使い勝手の良い公共交通を検討していくとの答弁であった。この件については、以前にも私自身、議論をさせていただいた経緯がある。先日、市立角館総合病院に通院されている高齢者の方から切実な胸の内を伺った。ライドシェアや特区を活用した手法等、考えれば様々な手法でこの間の交通手段の確保が出来るものと考えるが、現状、どのような検討をされているのか。
- (2) 荒木田議員の一般質問において、市民会館の緞帳について質す質問があった。緞帳の設置費が4億5千万円であり、国や県の補助金情報も収集し財源の確保を検討しているとの答弁であった。これには正直驚いた。最低限の修繕で、88万7千円の見積がある。しかし、大規模修繕がかかると、この修繕費が無駄になるという見解から、なかなか進まない現実がある。この事を踏まえ、次の3点について伺う。
- ① 4億5千万円の数字はどこから出て来たのか。
  - ② ここに予算を掛ける事が出来ない理由は何か。
  - ③ 教育行政方針では、施設内の老朽化が著しいことから、改修計画を進めながら市民が安全・安心に使用できるよう維持管理に努め、常に使用する方の目線になって運営を進めていくとしている。また、次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約の中では、市民会館・田沢湖病院を核に人口減少社会に対応した新たなまちづくりが必要と謳っている。これらの整合性を図る上で、市民会館の計画的な大規模改修が先ではないのかと考えるが如何か。

### 2 農業・畜産振興について

農業委員会より、令和6年度仙北市農業施策について、関係行政機関に対する意見書が提出されている。その中で「9、畜産振興への支援について」がある。仙北牛をつくる為に、日々頑張っている方々からいただいた声、そして農業に携わる方々の声を踏まえ、自分なりの観点から次の3点について伺う。

- (1) 円安や国際情勢の影響を受け、配合飼料や燃料、肥料等の生産資材価格が値上がりし、畜産農家の自助努力によるコスト削減だけでは経営が維持できない状況が続いている。この状況を乗り越える一つの手段として、農地だった場所を活用し、牧草地を創ることが必要と考える。しかし、水田活用の直接支払交付金の条件が厳格化された事により、厳しい状況となっている。仙北牛をつくる上でも、条件の緩和に向け働き掛ける行動を取っていかねばと考えるが、所見を伺う。
- (2) 地域内保留に向け、様々な取り組みがされている。限られた財源ではあるが、更なる取り組みも必要と考えるが、所見を伺う。

(3) 10項目からなる市への要請事項がある。この事について、市としてどのような行動を起こしていくのか、所見を伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 15番 高久昭二

### 1 仙北市本庁舎機能移転集約（案）について

- (1) 仮称仙北市角館上野本庁舎移転集約（案）のメリット及びデメリット等について。
- (2) 本庁舎機能移転・集約に伴い仙北市民に与える影響等について。
- (3) 仙北市田沢湖、角館、西木地区市民が公平・平等に市の行政サービス等が受けられる仙北市を目指して。

### 2 仙北市歴史的文化遺産（有形・無形文化財）等の活用について

- (1) 仙北市角館伝建群地区外の史跡保存活用について。（旧芦名家兵具庫）
- (2) 仙北市田沢湖黒倉遺跡、遺物の保存・活用について。

### 3 仙北市地場産業の振興を目指して

- (1) 地元地場産業の振興を目指して（製材工場）。
- (2) 田沢湖生保内黒沢工業団地の企業誘致と利活用等について。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 12番 小林 幸悦

### 1 圃場整備事業について

仙北市は農地集積加速化整備事業等の導入により、各地でこれまでの田園風景が一変してしまうような圃場整備事業が進められ、同時に法人等の経営体が立ち上がり、大区画された圃場で新しいカタチの農業に取り組んでいる、何よりも作業効率の良さを強く感じるこの事業は今後も続いていきそうだ。

一方、これまで整備事業の導入に難色を示していた地域でも、このままでは地域の農地が荒廃してしまうとの危機感を持つ方達が動き出して協議をしているようだが要件のハードルが厳しく苦心しているようで、相談を受けた際には適切なアドバイスをお願いしたい。

今後の圃場整備計画について次の5点について伺う。

- (1) 今後、事業採択となり事業が始まるのは何地域ありその面積は。
- (2) 現在、事業採択に向けて取り組んでいるのは何地区でその面積は。
- (3) 新たに整備事業を実施するにしても、調査開始から完了まで10年程の年月を要するとの事だが変わりはないか。
- (4) 現在計画のある事業が完成すれば整備率はいくらになるのか、市の水田面積も伺う。
- (5) これからの整備事業は農地中間管理機構関連農地整備事業が主流になっていくのか。

### 2 電気自動車（EV）の充電スタンド設置について

仙北市では、田沢湖庁舎及び西木庁舎などに設置されていたEV充電スタンドを撤去したが、今後新たに設置する計画はないのか。昨今CO2ゼロを目指す一環としてEV化に取り組む自治体もあるようだ。県南4市のEVスタンド設置状況を見てみると、湯沢市が進んでいる。湯沢市は令和4年にゼロカーボンシティ宣言を行い、その一環として公の施設に急速充電スタンドを設置し、市民、市内業者、観光などで訪れる方々に利用していただきEVの普及促進を図っていくとしている。公共施設9か所、民間設置数12か所の、計21のスタンドがある。横手市では道の駅2か所、公共施設1か所、民間設置13か所の計16基のスタンドがある。大仙市では民間のスタンドが19基設置され、公設のスタンドは現在設置していないようだが、ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組みとして2034年まで71台の公用車をEV、PHEV化するという目標に向けて現在取り組んでいるようだ。

仙北市の場合9か所スタンドがある、車のディーラーが5か所、宿泊施設に4か所あるが特に観光で訪れた方々はディーラーで充電をお願いすることになるが、行きにくいところもあるため、公共施設などへの設置を望んでいる、もちろん市民からも歓迎されると思う。

そこで次の4点について伺う。

- (1) 仙北市では新たな充電スタンドの設置は考えているのか。

- (2) 現在仙北市には何台のE V車があるのか。
- (3) 庁舎の車庫に充電設備があると思うが台数と能力は。
- (4) 国の方針で公用車について2035年にガソリン車の新車販売を廃止するようだが対策は考えているのか。

3 公用車について

仙北市に公用車は何台あり、カーナビ、ドライブレコーダーの装着率について伺う。

通告番号 8

## 一般質問発言通告要旨

通告者 13番 青柳 宗五郎

- 1 石川県能登半島で最大震度7の大地震が発生し241人の方が亡くなられ、住宅被害7万棟および約1万3千人の方々が避難所生活を強いられている。去年の仙北市における7月の災害が思い出される。そこで伺う。
  - (1) 災害にあった地域の現状と復旧進捗状況を伺う。
  - (2) 能登の現状を知るとき、水道復旧等に難儀している。仙北市でも災害に対し対応を考えるべきではないか伺う。
  
- 2 ふるさと納税について
  - (1) 今年度24億4,826万円の過去最高となっている。その内訳を伺う。
  - (2) ふるさと納税の一部を目的税として利用する考えはないか伺う。